

特選一席

（ステージでの選者発表順）
題詠・自由題の順に掲載



● 俵 万智 選

農大生の友と歩けば土手に咲く花は次々名をもらひたり

東京 吉田 久枝

スイッチでやさしい風にできるけどやさしい気持ちのスイッチは無い

徳島 坂東 典子

● 大辻 隆弘 選

苦戦中の大坂なおみベンチにてバナナの筋をゆつくり除りいつ

三重 鈴木 圭子

すきまという言葉おぼえしおさな子はすきま、すきまと指さし歩く

東京 山口 妙子

● 穂村 弘 選

好きよりも大好きの方が逃げ道を残せるかしら終電が来る

千葉 万仲 智子

すきまという言葉おぼえしおさな子はすきま、すきまと指さし歩く

東京 山口 妙子

● 永田 和宏 選

目を見つめ大丈夫？って聞かないでいじょうぶって答えてしまう

福井 藤田 久子

ジーンズの右のお尻のスマホから君の知らせは振動でくる

茨城 森 純一

● 佐佐木頼綱 選

大楠をひたすら登るカタツムリきみよ世界はこんなに広い

岡山 平尾三枝子

鳥になる準備を始めた父の眼は空を見ており時を映さず

愛媛 丸山 香苗

● 坂井 修一 選

シリウスはナイル氾濫の時知らず大地を祭れ種播く時ぞ

福島 須木ひろ子

水晶のやうな一日は暮れゆきて老人ホームに（イマジン）流る

埼玉 萩原 信子

● 大島 史洋 選

耳遠くなりたる妻に大声で言えばそんなにおこるなと言う

大分 芦刈 成雄

雨の日は紙の匂ひが深まれり湖底のやうな小さき古書店

新潟 滝沢三枝子

● 佐伯 裕子 選

大学の七万余冊の図書きだの段仰ぎつつゆく知のアルプスを

秋田 田口 順子

峡の村 たったふたりのためだけに若きパン屋は週いちど来る

青森 加賀谷富美子

● 斉藤 斎藤 選

末っ子の最後の学費を納め終え駅前通りを大きく歩く

大阪 東大路エリカ

もう何も出来なくなつたと言ふ母を二度笑はせてわたしも笑ふ

三重 加藤 京子

● 江戸 雪 選

大通り曲ればことんと静かなり能楽堂の矢印が見ゆ

東京 岡本 和子

ちちのみの父のちからの名残なる砥石のくぼみに指をふれたり

東京 大山 園枝

● 伊藤 一彦 選

漁師との対決終へて静かなり大間の鮪は解体を待つ

埼玉 望月 敬子

● 三枝 昂之 選

サバ缶を大根おろしにポンと入れさあ疾く食べよ仕事日和だ

群馬 大塚とみこ

新しい色鉛筆に君の名を書いてゆく春どの色も君

埼玉 古田 里麗

● 小池 光 選

大いなるリトルボーイを落とした手は家に帰って何を抱いたか

神奈川 新井場公德

ちちのみの父のちからの名残なる砥石のくぼみに指をふれたり

東京 大山 園枝

● 小島ゆかり 選

六月の日暮れの街は蜥蜴いろ名前を知らぬ知り合ひにあふ

埼玉 荻原 信子

◆ 特選 二席 —— 自由題 (選者五十音順)

伊藤 一彦 選

ホルダーの書類に父母の写真添え難準備の完了とする

北海道 仁尾 泰子

江戸 雪 選

冬の雨上がりて朝の教会のステンドグラスの白百合眩し

岩手 高橋 貴子

大島 史洋 選

足を病むわれには出来ぬフラダンス真似てみるなりせめて手振り

静岡 半田 貞子

大辻 隆弘 選

スーパリーの鮭の切身はノルウェー産まだ見ぬ白夜想ひ手に取る

長崎 小泉 浪士

小池 光 選

河原にてチューバ練習する男の子チューバに空と雲を映して

大阪 瀬川 幸子

小島ゆかり 選

残業の帰りにいつも会う猫がたいへんだねと蟬をくれたり

愛媛 梅原 秀敏

三枝 昂之 選

雨の日は紙の匂ひが深まれり湖底のやうな小さき古書店

新潟 滝沢三枝子

斉藤 斎藤 選

蔭く気にはならぬキウイの小さき種自分をもっと面白がろう

神奈川 羽嶋 聡子

佐伯 裕子 選

エプロンの裾が僅かに触れただけバジルは本気が一面香る

群馬 鈴木 美幸

坂井 修一 選

運転の免許返納翌朝に歩道で出会うバツタと若葉

広島 小田 浩巳

佐佐木頼綱 選

枯れ果てた向日葵のみた夢だけを集めひかりの花束とする

京都 喜多 瑛優

俵 万智 選

母われにたつたひとつの贈りものレブロンに口紅極へかえす

千葉 山崎 蓉子

永田 和宏 選

この人にお茶を淹れたいこれからも冬のオフィスで決めた若き日

東京 平子 蘭子

穂村 弘 選

花の名はこの花の名はと母に聞くこの一瞬が終はらぬやうに

愛媛 和泉 幹子

類似する先行作品及び既発表作品があることが判明したため、ご辞退、取消した作品があります。